

ハート・プラス通信

身体内部に障害
があります



ハート・プラス
<http://www.normanet.ne.jp/~h-plus/>
Copyright © 2007 heart plus mark project. All rights reserved.

～内部障害者・内臓疾患者の暮らしについて考える～

2023年 5月20日 No.60<春号>

【配信元】NPO法人 ハート・プラスの会

【住 所】大阪府寝屋川市秦町41番1号寝屋川市立市民活動センター内

【連絡先】事務局 E-mail : info@heartplus.org 携帯電話 : 080-4824-9928

【ホームページ】<http://www.normanet.ne.jp/~h-plus/>

豊橋市教育委員会へ

DVDを寄贈

2023年1月16日、当会員の平尾幸一氏より寄贈された「内部障害者って何だろう？」のDVD52巻を愛知県豊橋市の教育委員会にお渡ししました。

平尾氏が地元の自治体である豊橋市教育委員会に昨春秋に訪問し、このDVDの意義を説明し共感を得られたことで、市内52の小学校に配布・設置していただけることになりました。この贈呈の場には、平尾氏をはじめ当会の鈴木代表理事も同席し、豊橋市教育委員会教育政策課の中広行事務指導主事に引き渡しを行いました。



当方からは、多くの子どもたちに、見た目にわからない障害である内部障害者のことを知ってもらい、これからの社会を生き延びる過程において、自身は何ができるかを考える切っ掛けになることを願っていることを伝えました。中主事からは、このDVDは生徒だけではなく是非とも教員にも観てもらって、指導する側の知識と理解を深めていく材料にしたい旨の話がありました。



DVDを贈呈する平尾氏（左）

平尾氏は、豊橋市をはじめとして愛知県の東三河の他の市町村にも、このDVDの寄贈をするための準備も始めているという話

をしておられました。さらに、ご自身の障害であるオストメイトに関わる活動として、小学校にオストメイト用トイレの設置を推進していきたいとの話がありました。

これは先天性の疾患によるストーマ（人工肛門）造設をした子供への配慮だけではなく、大規模災害時に小学校が避難所になることを想定したうえで、必要な施策となるのでは是非とも県や各自治体への働きかけをしていくとの力強い意気込みを語っておられました。（鈴木 記）

投稿記事

議会傍聴記

奈良県 岩井伸文

奈良市議会令和5年3月定例会「一般質問」において、榎本博一市議より内部障害への理解促進及びハート・プラスマークについての質疑をするとの連絡があったので、当会の会員3名で傍聴してきました。その時の模様を報告します。



これは、昨年のはぐ・はぐ祭り（当通信59号で既報）に当会のブースに当該議員が立ち寄っていただいた際に、内部障害について

お話をさせていただいたことがきっかけで、当会の活動に理解を示してもらったことから議会で取り上げてもらったという次第です。

当日の質疑応答の様子をダイジェストでお伝えします。

（榎本議員）

内部障害は、（中略）内臓疾患患者とは五臓六腑に重大な影響をかかえているにもかかわらず、外見からはわかりにくく、内部障害の方は、「障害者でないのに、障害者優先駐車場や優先座席を利用しているのでは」ととらえられたり、様々な困難をかかえておられます。この内部障害があることをあらわすのがハート・プラスマークであります。

先日も内部障害者の方々からお話を聞く機会を持ったわけですが、そうした皆さまの曰ごろのご苦労たるや、われわれの

想像しづらい部分があるわけであります。もちろん、想像できないと、それではいけないのですが、人間というものは他者の痛みには鈍感なところもあるわけです。特に、内部障害に関しては、傍目にわかりにくいものですから、理解促進のための取り組みが行政としても必要であると私は考えております。

（中略）

と前置きし、4点にわたる質問がありました。

以下は、その答弁の一部です



榎本議員

（福祉部長）

ハート・プラスマークの周知についてでございますが、（中略）市民日よりや電子広告を利用して、ハート・プラスマークやそれ以外の障害があることを示すマークについて更なる周知を行うことで理解の促進につなげていきたいと考えております。

次に、マークの配布についてですが、現在奈良県の作成した、障害だけでなく何らかの配慮が必要な人のためのヘルプマークのみを配布しております。今後、ヘルプ

マーク以外の障害があることを示すマークの配布については、他市の状況なども踏まえて検討してまいりたいと考えております。

（榎本議員）

2問目は意見・要望とさせていただきます。

内部障害ならびにハート・プラスマークに関する質問ですが、（中略）内部障害者、内臓疾患者は医学で治療が不可能な場合であっても、社会的理解と環境整備の促進により、体をいたわり辛さを緩和できるわけですし、医学の進歩があれば、救われる可能性もあります。目に見えない障害者の福祉理解の第一歩として、ハート・プラスマークの行政による普及を行うとともに、福祉関係者様には医学の浸透、きめ細やかな研修を行っていただきたいと思っております。

マークを考案した、特定非営利活動法人ハート・プラスの会では、学校教育で福祉授業の場で利用してほしいということ、DVDも作成されております。子どもたちに理解しやすいようにということ、作成されておりますので、これをぜひ、特に関係部署の皆様にはご覧いただき、学校教育の現場にとどまらず、活用されていくことを願っております。

以上が、令和5年3月奈良市議会定例会議事録から抜粋したものです。

なお、上記の「質疑応答」の様子は、インターネットの以下の通り検索すれば視聴できます。「奈良市議会 中継」↓「会議録・会議中継（外部ページ）」↓「会議中継・録画」↓「令和5年3月定例会3月8日 質疑・一般質問」

当議会での榎本議員の質疑は傍聴した私達にとっては満足のものでした。

当方の意見と要望を訴えて頂き、特に当会で子供達に理解しやすいように作成したDVD「内部障害って何だろう！」を学校教育の場で利用してほしい旨も発言してもらえました。

議会の傍聴というものを初めて経験し、緊張もありましたが大変貴重な体験でもありました。

今後、行政としてどのように対応していくのか注視していきたいと思っております。



「電車での出来事」

大阪府 石橋壽子

久しぶりに大阪市内に外出した時の事、

その日は年末28日でした。少し帰るのが遅くなり駅は混んでいました。

「一年前は、何度も手術や入院を繰り返して丁度この頃ICUに入っていたなあ」と、思い出しながら、駅のホームでは優先座席に座れる位置で電車を待つ、が前にはたくさん人が並んでいます。ちょっと心配になる「座れるかなあ」「次の電車にした方が良いかなあ」悩む。どんだん人がホームにあふれてきた。仕方なく電車を見送り、次の急行電車を待つことにして最前列に立つ。しかし電車内は、到着と同時にだれか込む人で、優先座席に座るのがやっとの事でした。年末の電車内は立っている人が多くて、「皆さん疲れているのだなあ」と周りを眺める。乗り換える駅に着いて、各駅停車の車内に乗り込むが、いつもは空いている電車なのに、さすがに年末なのか混んでいた、優先座席に座れないか見てみると、二人シート向かい合わせのボックスシートが通路を挟んで優先座席になっており、その中の1席に座れて安堵した。

気持ちと身体が落ち着いて優先座席に座っている人を眺めていると、私の前に座っている若い女性が、スマホのスピーカーを大音量にして動画を観ている。と、私の隣に座っている女性が突然その若い人の膝を叩き「ここは優先座席を必要とする人が座っているから、うるさいスマホを切りなさい」と注意したのです。なんと注意された若い女性は「暴力ですよ！いきなり叩いてきて！」と応戦状態に。今度は若い女性の隣に座っていた年配の女性が、「叩かれて痛かったの？スマホがうるさいのは周りが我慢する事なの？」と優しく諭して若い女性はしぶしぶ、スマホの音量を下げていました。でも、これはほんの序章なのです。実は、私は通路挟んで隣の優先座席を、占領している小学生4人を見ていました。こちらの騒ぎに気付き困っている様子。それまで塾の話か友達の話で盛り上がっていたのですが、「ここは優先座席を必要！」の声を聴いてから会話が途絶えていました。その内に、小学生2人が降りたので、私は残っているその子たちの席へ移動して、「この席に座ったのはだれかと聞く「いいえ」と応えてくれる、「この席は立っているのがしんどいや、身体が不自由で立っていると電車の中で倒れてしまうかも

しれない人が座る席だけ知ってたかな？」と聞くと、「うん」と返事。「ごめんね、今怖い思いをしているかも知れないね、知らない人に急に話したらね」と謝りつつも、ハート・プラスマークカードやヘルプマークを見せて、「電車が空いているときは、優先座席に誰が座っても良いけれど、車内が混んできたら優先座席は、この絵にかいてあるような人に譲ってほしい」「見た目にわからないけど、このマークをつけている人はとても疲れやすい人なので、席を譲ってくれるようにしてね」と話していたら、降りる駅になり、この小学生も一緒に降りた。しかし、ものすごい勢いで一目散に駆けて行ってあつという間に見えなくなりました。話しかけられて嫌だったろうなど、思いながらも言わずにおれなかつたのです。そしてこの子たちは私が住む地域の子だったので、やはり言うて良かったのだと言いつつ聞かせながら家路を急ぎました。



SDGsを支援しています

神奈川県 石川康美

横浜市が半官半民組織の企業へ講義委託し中小企業診断士が講師となり講習を受けました。

この講習は横浜市区民活動センターに登録されている団体を対象に開催されたものです。

最近よく聞くけれど「SDGs」とは何か？ の説明を聞き、登録団体は何らかの目的があつて活動しているので「わたしたちができることを考えよう」と題した講習です。

国際目標達成のための17のゴール



まず説明があり「SDGs」というのは環境破壊・貧困や差別そして不平等など今、世界で起きている様々な問題を国連加盟国が2030年までに持続可能でよりよい世界を目指し17の国際目標を定め問題に取り組もう、ということ

Sustainable Development

Goals

を訳し【持続可能な開発目標】という意味の英字の頭文字SDGとGoalの複数sを表示して「エスディージーズ」の略称で言い表わされています。

この取り組みは個人でもできる事も沢山あります。例えば飲み終わったペットボトルを海へ投げ込めば環境破壊や海洋生物の生態に影響してしまうことで「⑫つくる責任使う責任」「⑭海の豊かさを守ろう」に匹敵し自覚すれば破壊を防げるのです。

参加者は5人一組のグループに分かれ『あなたの活動はどれにあてはまりますか？わたしたちができることを考えよう』と課題の提示があり所属している団体は17国際目標のどれに関係しているかを話し合いました。

ハート・プラスの会も無関係ではありませんでした。17の国際目標のなかの【③全ての人の健康と福祉を⑧働きがいも経済成長も⑩人や国の不平等をなくそう⑪住み続けられるまちづくり⑰パートナーシップで目標を達成しよう】以上の5目標に会の活動が関連されるのでポスターやチラシに「SDGs」のロゴにハート・プラスマークを表示することが出来ます。

ポスター・チラシなどに表示できるデザイン



内部障害者・内臓疾患者そして障がいがあるすべての人が住みよい社会に向けてSDGsを支援できる事を講習に参加して学びました。

TOPICS



2023年3月27日から～1人1台要件の緩和とオンライン申請を導入します～となりました。実際には、障害者手帳に1種と記載があれば、現在は1台だけ登録してETC割引が受けられていたが、今回の改正によって、障害者手帳1種を持っていれば、知人の車やレンタカーの利用、タクシーの利用など、事前の登録が無い車でも、料金所で一旦停止のうえで、係員が障害者手帳の記載事項（1種）と、本人確認すれば割引されます。但し、障害者手帳に「道路介護」シールが必要です。詳しくはお住まいの役所にて確認するか、高速道路公団のホームページから確認して下さい。

これは長年「全国の視覚障害者団体」が国に要望して実現したものです。自分で運転できない人たちにとって、車を所持して運転する事は無いので、ETC割引だけしかなかったのは不平等と判断したそうです。しかし元々、ETCが無い頃は手帳の提示で割引されていたので、昔に戻ったと言う事です。ただ、事前登録された車はETCがそのまま使えます。更新時は市役所に行かなくても、オンライン申請が出来るようになりましたので便利になったと思います。

下記ウェブページにおいても公開されております

URL <https://www.expressway-discount.jp/pressdownload/>

福祉関係のマークについてのアンケート調査結果報告について

福祉関係マークの普及調査グループが企画・実施されたアンケート調査結果をお知らせいただいていたので、特に「ハート・プラスマーク」に関する事項をメインにこの紙面上で一部紹介させていただきます。

■調査データ

- ・調査期間 2021年5月9日～2021年6月30日
- ・調査主体 福祉関係マークの普及調査グループ
- ・調査目的 福祉関係のマークを普及させる方策を考えるため
- ・調査内容 福祉関係のマーク11種について、周知の程度（視認率・認知率）を調査した
- ・回答者数 249名（うち内部障害者の割合5.7%）

■マークの認知率ランキング

- ・第1位 ヘルプマーク 64.4%
- ・第2位 障害者のための国際シンボルマーク 60.4%
- ・第3位 耳マーク 48.0%
- ・第6位 オストメイトマーク 36.0%
- ・第8位 **ハート・プラスマーク** 24.8%



■マークを見たことがあるランキング

- ・第1位 障害者のための国際シンボルマーク 100.0%
- ・第2位 ヘルプマーク 86.8%
- ・第3位 身体障害者標識 82.4%
- ・第6位 オストメイトマーク 70.4%
- ・第9位 **ハート・プラスマーク** 48.4%

■ハート・プラスマークの認知度

・ハート・プラスマークを見たことがある人の割合は、48.4%と半数近いが、意味を知っていると答えた人は38.4%と低い。

■ハート・プラスマークを見た場所

- ・公共交通機関・駅、病院内や病院に併設された施設、公共施設の上位3項目で全体の56.1%を占めている。

■ハート・プラスマークのエピソード<抜粋>

- ・自分は内部障害で、カバンにマークを付けていたら地下鉄で明らかに自分よりも年上の人と電車に乗った途端に同行者を差し置いて自分におばさんから席を譲ってもらった。嬉しかった。
- ・心臓に疾患がある人に対応しているとはわかるが、何にどう対応しているか、見たことがないからわからない。
- ・見たことはないが、デザインを見てすぐイメージが繋がる。
- ・携帯など、使わないようにしている。

■福祉関係のマークがより知られる方法は？

- ・マスメディアの活用、教育、掲示の上位3項目で全体の55.0%を占める。

■当会から見た考察

- はじめに、この調査報告書には「影響要因」として、回答者のうち障害者手帳を持っている人が121人、生活のしづらさを感じる心身の状態の人が22人、福祉関係の職業の従事者が89人と全体の93%を占めていることから、日常的に福祉関係のマークを意識する人が多いということ、障害者の中に聴力障害の人が85人（34.1%）もおられることから一般的な不特定多数を対象としたアンケートと比較して回答者の偏りがあることを注意する必要があるとのことでした。
- ハート・プラスマーク（以下 当マーク）の認知率や見たことがあるという人の割合は他のマークに比べると低いという結果ですが、こちらが想像していた数値からすると意外に高かったというのが率直な印象でした。
- また、他のマークは官公庁が主体で広めて行っているのに対して、ハート・プラスマークは一民間の任意団体からの提唱でこれまでに広がったことは驚きであり素晴らしいことだと思います。これまで他の団体が同じようなマークを作っていました、いつの間にか見かけなくなってしまいました。このマークを作り、広げてきた当会の先輩達に尊敬の念と感謝を意を表したいと思います。
- 当マークの意味を知っているかの問いに対し、この調査のコメントとしては、「低い」という評価になっていますが、この38.4%というのは、回答総数に対する割合なので、決して低いとは思えません。確かに、正しく或いは深く意味を理解しているかどうかについてはこのアンケートからは見えてきませんが、「知っている」という人が相当数いることについては嬉しいことだと思います。一方、全員が見たことがあると答えた「障害者のための国際シンボルマーク」に対するエピソードを見ると、意味の取り違えが散見されており、車いすのデザインを使用していることから、車いすユーザーに限ったものまたは障害者全体を表現しているかのような誤解が多いようです。
- さらに認知率が最も高いヘルプマークについても、そのエピソードの中には、「席を譲ろうと声をかけたが断られた」「ヘルプが必要でない人までつけているのは問題」「具体的なニーズがわかりにくい」といったことが書かれていて、早く普及させるために様々な広報はしたものの、運用上の問題に対する対応が置き去りにされている実態もこのアンケートで知ることができました。
- 私どもの当マークは、デザイン的にも誤解を生むような要素は少なく、デザインを見てすぐイメージにつながるという声もあるように「わかってもらいやすい」のではないかと考えています。ただし、「理解してもらおう」ためには、マークの意味つまり内部障害者・内臓疾患者とは何かを広げる努力が必要と言えます。
- マークをより知られる方法としての回答の中に「教育」があり全体の20%を占めています。その大部分が義務教育の授業等に取り入れるべきというものであったということで、マスメディアの活用次第の方策としてあげられていることは注目に値すると思います。
- 当マークの認識は、内部障害者・内臓疾患者への理解を求めるための言わば入口のようなものであり、当会が掲げる旗印のようなものです。このマークを見るとその奥にあるものが容易に連想できると多くの人に言ってもらえるような社会になることを大いに期待したいと思います。

以上

★★★皆様からの投稿を募集しています★★★

このハート・プラス通信を読んだ感想や、ご自分の趣味や特技などの紹介、身の回りの小さな出来事など、原稿を事務局に郵送かメールで送って下さい。お待ちしております。